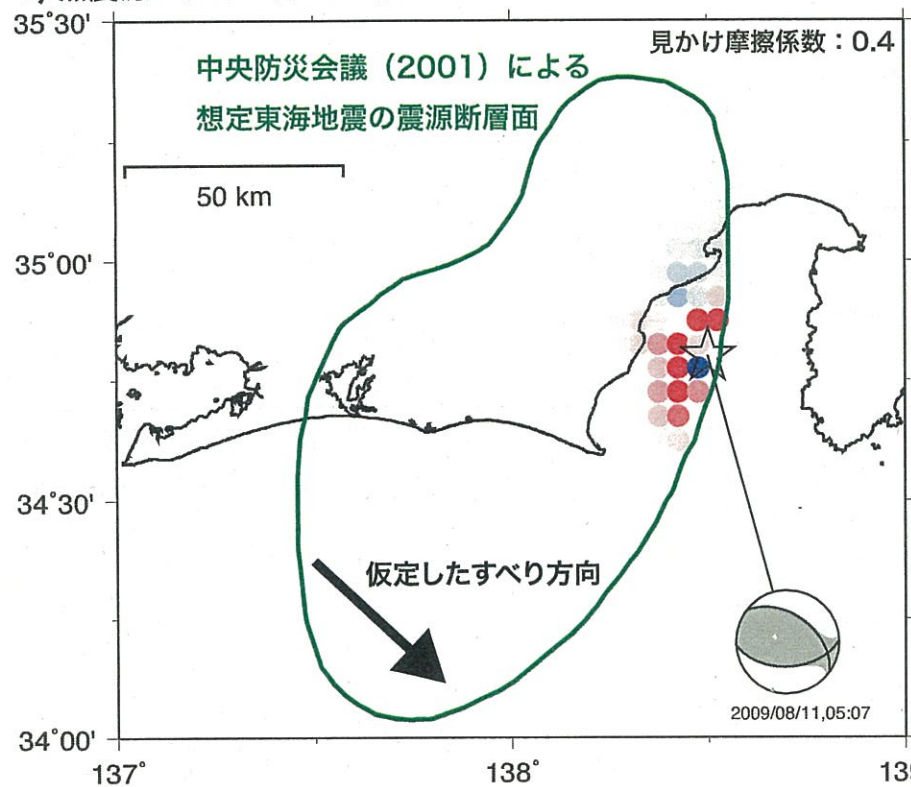


震央から南南西および西の東海地震の想定断層面上でクーロン応力が増加。

2009年8月11日に発生した駿河湾の地震が、東海地震に与える影響を Δ CFFによって評価した。 Δ CFFの計算には以下の2つの震源モデルを仮定した。1) 防災科研 F-net の発震機構解を参考にした点震源モデル。2) 鈴木・青井(2009)による波形インバージョンの結果得られた震源モデル。どちらのモデルを用いた場合でも震央から南南西および西の領域で、クーロン応力の増加が見られる。また2)の場合には1)の場合に比べて、震央から西側の Δ CFF正の領域がより深部まで広がっている。

1) 点震源モデルを用いた場合



2) 鈴木・青井(2009)のモデルを用いた場合

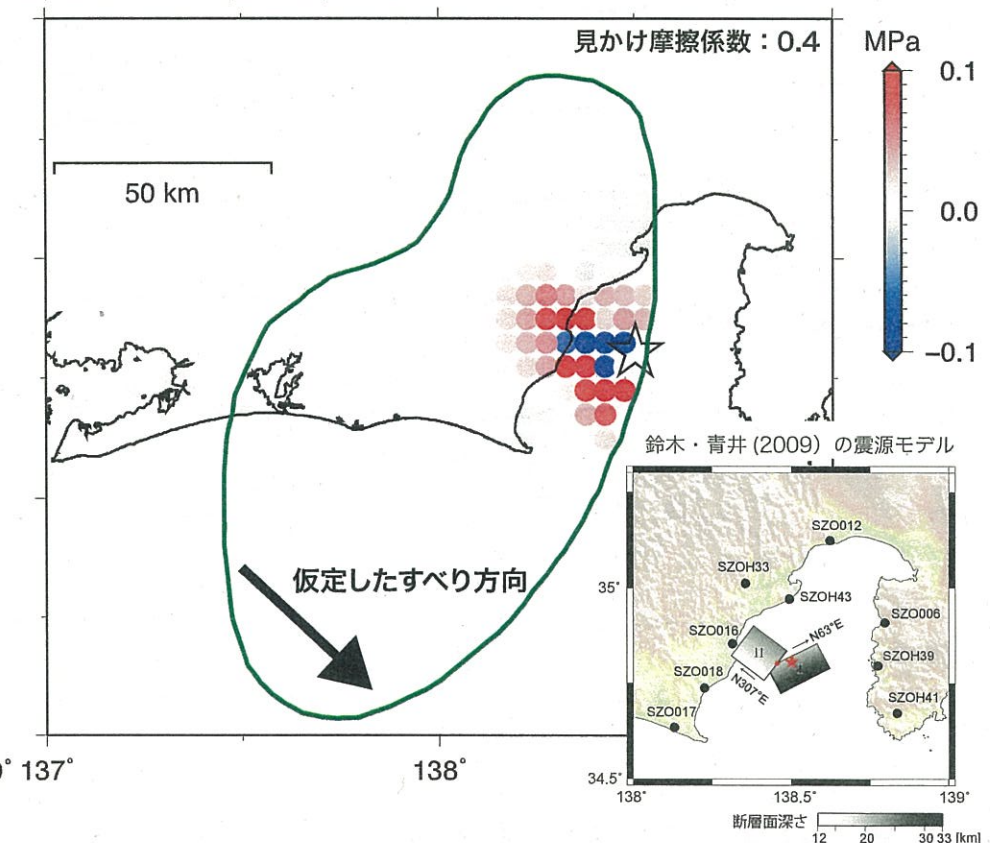


図1. 東海地震の想定断層面上でのクーロン応力変化。